



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Theme of Rotary International 1995-96

Act with Integrity
Serve with Love
Work for Peace

真心の行動・慈愛の奉仕・平和に挺身
1995～96年度・国際ロータリーのテーマ／ハーバードG.ブラウンR.I.会長

●本日の例会

10月27日／第437回例会

■次年度(96～97年度)理事・役員候補者指名

■卓話「ロータリーでいう職業奉仕とは」

東京世田谷南ロータリークラブ会員・野村福祉共済会理事 **大 山 利 雄 氏**

●先週報告

10月20日／第436回例会

■会長報告

本日は山川会長が海外出張により欠席のため、柴藤副会長の点鐘で例会が始まりました。

■幹事報告 第2750地区地区大会[96. 3. 8(金)9(土)]アンケートのご回答は本日迄です。

■親睦活動委員会報告(川鍋委員長)

①11月16日に親睦ゴルフコンペを小金井CCにて開催します。まだ人数に余裕がありますのでご参加下さい。

②11月の火曜会を7日(火)に全日空ホテル37F アストラルにて開催します。谷村会員より漢代の文字資料——瓦と印章について——のテーマにてお話をうかがいます。皆様多数ご出席下さい。

■慶事披露 ●お誕生日祝／河原勢自君(10月20日) 荒木昭文君(10月26日)

■出席報告 ●会員73名・出席45名・欠席28名(出席規定免除者3名)

ビジター(7名敬称略)／刺賀信雄(大阪)、加藤昭彦(土岐中央)、塩沢 護(東京西南)、金山昌世(日本橋西)、松笠 功(東京芝)、山口栄一、戸川正悟(以上東京南)

●11月行事予定

11月は
**ロータリー
財 団**
月間です

3日(金)休 会(文化の日)

4日(土)派遣・来日学生オリエンテーション／日本青年館 15:00～17:00

7日(火)火曜会／東京全日空ホテル37F アストラル 17:30～19:30

10日(金)定例理事会／東京全日空ホテル1F 孔雀の間 例会後13:40～15:00

15日(水)千代田・京浜・山の手合同IM

13:00／開会・点鐘 13:30／記念講演 14:45／分科会

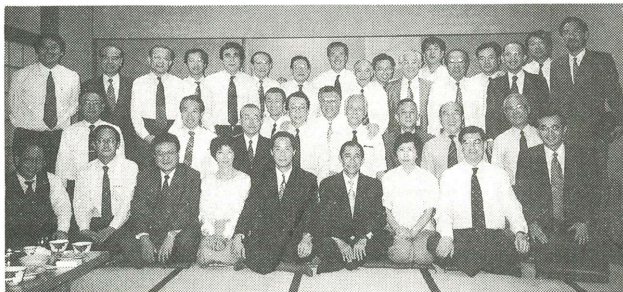
16:30／ガバナー所感・まとめ 17:00～18:45／懇親会

ホテルメリディアンパシフィック東京(ホストクラブ東京目黒RC)

ロータリー環境保全デー(1日)

16日(木)親睦ゴルフコンペ／小金井カントリー倶楽部

■新会員歓迎会の報告



参加者／青野、荒木、後藤、平井、石東、岩瀬、梶内、川鍋、小杉、丸山、松原、宮本、宮武、村山、同夫人、鍋島、二宮、大日方、大村、斉藤、佐々木、佐藤、関、世良、同夫人、四分一、鈴木、武下、田中、植田、渡邊、山下、柳澤、保森、横山、吉田、吉岡会員の皆さんおよび山中さん

本年度第一回新会員歓迎会が、10月17日(火)18:00より南青山の閑静な住宅街の中にある東京銀行青山寮で、村山公士、世良和信、小杉眞史、植田和男各新会員をお迎えし、さらに、村山、世良両会員の家族もご出席され、総勢35名の会員参加の下、盛大に開催されました。

会は関幹事の入会歓迎挨拶に始まり、斉藤会員の「ロータリークラブは友達が沢山できるところ」とのお話と乾盃のご発声、各新会員の自己紹介とご挨拶、懇親の宴へと進みました。美味なしゃぶしゃぶ鍋と日本酒に畳座敷のお陰で、新会員を囲んだ親睦の輪が各所に広がり、楽しく和やかな歓談が続きました。この間に、参加者全員が短いコメントを載せたり、署名をして、新会員の皆さんに贈るための記念の色紙が用意されました。

瞬く間に2時間が過ぎ、佐藤会員が「例会とはちがった楽しさのある会であった」とのご挨拶の後、川鍋親睦委員長の関東一本締め、参加者全員の記念撮影で無事閉会いたしました。

(梶内記)

●次週11月3日(文化の日)は休会です。

●次回予告

11月10日／第438回例会

■卓話「米山奨学金制度」

東京城西ロータリークラブ会員
第2750地区前年度米山奨学選考委員長
(株)ディーシーカード 相談役

飯 野 公 一 氏

■クラブフォーラム「職業奉仕について」

と き 95.10.20 (金) 例会後13:10~15:00
ところ 東京全日空ホテルB1 青雲の間

●過去二回の職業奉仕フォーラムを振り返って

宮 武 保 義

職業奉仕は、理解しづらいテーマだと思われており、当クラブでは毎年職業奉仕月間に、これについて勉強をし、理解に努めてきた。本日のフォーラムを始めるに当たって、過去二回の職業奉仕フォーラムを振り返り、記憶を呼び戻しておきたい。

一昨々年のフォーラムでは、ロータリーの歴史を辿り乍ら、職業奉仕を理解するためのキーワードが確認されている。即ち、1910年、最初のロータリー大会で採択されたロータリーの綱領に、職業倫理の記載がある。職業奉仕という言葉は、Vocational Serviceとして1927年大会で公式に取り上げられた。1930年代の大恐慌期に、四つのテストが生まれた。このテストは日本では関心が薄い、米国では非常に盛んである。1989年、規定審議会は「職業宣言」を採択した。ロータリークラブには、道徳水準という言葉があるが、これを分かりやすくしたものである、等々が指摘されている。

また、職業奉仕は、永年会員個人の責任において、実践すべきものとされてきたが、1987年、R1理事会はこれを改め、「職業奉仕は、クラブと会員双方の責務である」との声明を採択した。

一昨年のフォーラムでは、職業代表たるロータリアンが、職業倫理をもち、全ての人が共存共栄していこうという素晴らしい理想こそ、職業奉仕の神髄だと、総括している。

●「ロータリーの綱領」「四つのテスト」「職業宣言」について

吉 田 用 親

ロータリーにおける「職業奉仕」を理解しようとする場合、どうしても通らなければならない関門は、「ロータリーの綱領」についての理解です。この前文(主文)の中で、職業人の集まりたるロータリーの、会員各々が心掛けるべき行動原理をうたい、更に、具体的項目として、第二項で、職業奉仕の内容をうたっているからです。

ロータリーの綱領は、紆余曲折を経て、1935年にほぼ、現在のものが出来上がりましたが、その解釈については、翻訳の仕方や、歴史的経過を理解しないと、解りにくい点がありますが、田島会員に詳細を解説いただきました。

「四つのテスト」は、1932年、ハーバード・テラーが倒産の危機に瀕した会社の建て直しに当たって設定した、事業遂行上の判断基準ですが、事業又は、職業活動が社会に貢献し継続発展するための行動規範とも言え、ロータリーの理念、職業奉仕の実践上の行動規範に繋がるものとして、1943年、ロータリーとしての採用が承認されました。原文に戻って吟味しますと、非常に奥の深い内容ですので、河原会員に解説していただきました。

職業宣言は、1987年に採択された「職業奉仕における新方針」の決議を受けて、1989年、規定審議会で制定されたものですが、「ロータリーの綱領」をより具体的に解り易く言い直したものと解釈され、従って内容は非常に解り易いのですが、「ロータリーの綱領」や「四つのテスト」を十分理解することが先決と考えます。

●ロータリーの綱領と職業宣言

田 島 一 郎

日本の憲法をよく知らなくても日常生活が出来るように、ロータリーの綱領をよく知らなくてもロータリー活動に困らないかもしれません。しかし、綱領はロータリーのあらゆる活動の原理原則であります。

現在のロータリーの綱領に屢々あらわれる「奉仕の理想」という言葉は分かり難いといわれています。あるロータリアンが当時R1理事の向笠さんに伺ったところ「奉仕という理想」と解釈してはどうかと言われたということがあります。これも判然としたしません。私は Ideal の訳語の中から理念という言葉を選んで「奉仕の理念」と解釈してはどうかと考えております。

職業奉仕に対応する綱領の第二項目も分かり難く、これを解説したといわれる「職業宣言」の方が理解し易いと思われれます。ここでは国の法律、地域社会の道徳規準、職業の倫理的規範など既成のものに対しては忠実に守る。しかしこの中で倫理的規範のレベル、すなわちその規準については最高度まで推進するように全力を尽くす。これによって職業の品位が保たれると解釈しては如何でしょうか。

●四つのテストについて

河 原 勢 自

ロータリーの職業奉仕の行動規範として「四つのテスト」が提唱されている。当クラブ元老、田島一郎氏によれば、これは「四つ辻」、すなわち「十字路口」における判断基準である。元来は倒産会社再建のためのモットーである。この基準に従って会社活動をするとは何故、繁栄するのか。これを理解するための一つの手だてとして欧米の契約法の理念が参考になろう。例えば、双務契約は単に双方が義務を負う契約であるが、根底には、当事者双方の利益が均衡し、負担が均衡していなければならないと言う観念が伏在する。どちらかが余計な利益を得、余計な負担を強いられる場合、法律に違反していなくとも「不当利益」として反還義務を生じる場合があるのである。一つの商品を売買する関係を考察しよう。製造者は全知を傾け誠意を奏して最高の製品を作成する。買手は製作者を信じて自らの欲する最高の品質の商品を買おうとする。両者の考えが偽りなく一致し、その代価が双方にとって適正なものであれば、双方に最大の満足が与えられ恒久的な関係が築けるだろう。この商品を紹介しPRする広告も偽りなく行われれば関係者すべてにより結果を生むのである。会社活動においては、将来、経営者、従業員、顧客のすべての関係者に同様のバランスがなければならないということになる。会社等がこの四つのテストに照らして恥じない活動をするならば、その存在は社会にとって必須の欠くべからざるものとなり、その活動自体がそのまま、社会に対する奉仕活動になるのである。こう考えると、四つのテストは受け入れやすい実践的行動規範と理解できるのではない。

●私の職業奉仕論

岩 瀬 秀 郎

職業奉仕とは、『自分の所属する企業が、企業の内外を問わず「四つのテスト」を如何にして実践するか』ということだと考える。即ち、その企業を取り巻くあらゆる環境(株主、従業員、顧客とその家族たち、近隣の人たち、および自然環境等)を大切に、周囲に迷惑をかけずに皆に心地好い場を提供することが職業奉仕の精神ではないかと考える。このため、弊社は創立60周年をむかえる平成9年度までの3ヶ年計画の中で次のような経営理念を掲げている。

『いつもお客さまの気持を考えて「心」をもって接し、内においては「和」を尊びながら物事に処し、周りの環境にも十分心を配りながら皆から愛される品位のある会社になろう』

このためには常に適正利潤をあげながら、働く環境を整備し、時間短縮を実現して「ゆとり」のある生活を可能にし、品質管理を含む各種管理体制を確立してPL法にも対応できる生産を旨とすることが主たる具体的な目標になるが、現在遅々としてではあるが前進しつつある。

上記経営理念は私が以前から抱いていたものであるが、先年職業奉仕委員長を仰せつかって「職業奉仕」のなんたるかを勉強する中で、「職業を通じて」できる奉仕とは前述のような精神に基づく事ではないかという結論に達した。このことはロータリーの長い論争の焦点からすればややはずれた安易な考え方もかもしれないが、私としては少なくとも企業に対する私の考え方が間違っていないと思わせてくれただけでもロータリーの存在意義を見出す事ができて嬉しく思っている。

出席34名
(順不同・敬称略)

荒木、後藤、伊部、入沢、岩瀬、河原、川鍋、小澁、小杉、松原、宮本、宮武、村山、沖、大村、佐々木、佐藤、関、柴藤、柴藤、島田、鈴木、田島、高須、武下、田辺、田中、植田、山下、柳澤、保森、横山、吉田、斉藤



ニコニコBOX

順不同・敬称略
10月20日/11件 39,000円
95~96年度累計 673,000円
多額の寄付を有難うございました。

松原秋夫、吉田用親、宮武保義、伊部和夫、平井逸夫、川鍋二郎、小澁雅亮、宮本正祥、岩瀬秀郎、新保國彦、村山公士
紙面の都合上、コメントは省略させていただきました。

東京新南ロータリークラブ

会長：山川政樹 副会長：柴藤清三郎 幹事：関 征春

〒107 東京都港区赤坂 2-19-8 赤坂 2 丁目アネックス 3 階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日 12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂 1-12-33 TEL.03-3505-1111

〈会報委員〉

荒木 昭文、清原 元輔、青野 信次、
植田 和男、後藤 信夫、新保 國彦、
相澤 成憲、吉田 用親、高橋 良士、
吉岡 琢磨、大村 富俊(編集担当順)